

令和3（2021）年4月吉日

設立大会への参加者アンケートの要約（報告）

日本アカデミック・アドバイジング協会事務局

参加者の皆さまからご回答いただいたアンケート結果を以下に取りまとめました。要点のみを報告しますが、回答内容は今回の設立大会の振返りとして活用させていただきます。

1. 回答者の所属機関

回答者48名は、47名が大学・短大、そして1名が専門学校の関係者でした。当日参加者の約半数から回答をいただきました。

2. 職種別に回答を整理

回答者には学生1名が参加。職種別（教員、職員）のなかに含めて集計しています。回答者数が小規模であるため、職種別の異同については触れないことにします。

2.1 「表1 参加目的（複数回答あり）」

全員が『（1）興味があるから』に回答。『（2）情報集のため』も7割と多いことがわかります。

参加目的／職種別	教員	職員	学生	回答数
（1）興味があるから	24	23	1	48(100.0)
（2）情報収集のため	18	16	1	35(72.9)
（3）ネットワーク構築のため	8	8	0	16(33.3)
（4）業務上必要なため	6	8	0	14(29.2)
（5）自己研鑽のため	0	1	0	1(0.02)
回答者数	24(100.0)	23(100.0)	1(100.0)	48(100.0)

2.2 「表2 セッション満足度」と「表3 セッションで印象に残ったキーワード」

二つのセッションに対する満足度はいずれも4割が『大変参考になった』と回答しています。『参考になった』を含めると肯定的な満足度の回答は9割前後を占めます。

各セッションに参加して印象に残ったキーワードを自由に回答してもらいました。結果を整理・集約すると、『（1）スチューデントサクセス』の概念への関心が一番多く（25%）になりました。学生の選択・決定を大事にする『（2）学生中心の対応』も同じ程度に多い（23%）ことがわかります。

セッション満足度／職種別	教員	職員	学生	回答数
(1) 立命館大学SSP事例				
①大変参考になった	13	5	1	19(40.6)
②参考になった	10	17	0	27(56.3)
③ふつう	1	1	0	2(4.1)
④全く参考にならなかった	0	0	0	0
(2) 学生の物語				
①大変参考になった	12	7	1	20(41.7)
②参考になった	9	13	0	22(45.8)
③ふつう	3	1	0	4(8.3)
④全く参考にならなかった	0	2	0	2(4.1)
回答者数	24(100.0)	23(100.0)	1(100.0)	48(100.0)

キーワード／職種別	教員	職員	学生	回答数
(1) スチューデントサクセス	7	4	1	12(25.0)
(2) 学生中心の対応	3	8	0	11(22.9)
(3) 部局間連携やピアサポート	2	0	0	2(4.1)
(4) アドバイジング概念や背景	2	1	0	3(6.3)
(5) 記入なし	10	10	0	20(41.7)
回答者数	24(100.0)	23(100.0)	1(100.0)	48(100.0)

2.3 「表4 大会への総合満足度」と「表5 入会希望」

設立大会への総合満足度は「①大変満足」と「②やや満足」を合わせると95%に達しています。

入会の希望に関しては回答者全員が肯定的に検討していることがわかります。なかでも5割以上から『(1) 入会したい』と明確な態度表明がありました。

総合満足度／参加者別	教員	職員	学生	回答数
①大変満足	15	11	0	26(54.2)
②やや満足	9	10	1	20(41.7)
③どちらでもない	0	2	0	2(4.1)
回答者数	24(100.0)	23(100.0)	1(100.0)	48(100.0)

入会希望／職種別	教員	職員	学生	回答数
(1) 入会したい	14	12	1	27(56.3)
(2) 入会を検討したい	10	11	0	21(43.7)
回答者数	24(100.0)	23(100.0)	1(100.0)	48(100.0)

2.4 「表6 現状の困りごとに関する回答内容」

所属の機関におけるアドバイジングの困りごとを自由に記述してもらいました。結果を整理・集約すると、10のカテゴリーに分類できるほどさまざまな内容となりました。複数回答で目を引いたのが、『(1) 部署間や教職員間の組織的連携の難しさ』であり、『(2) 個別教員のスキルや経験に頼る傾向』という問題です。この協会が必要とされる理由が回答内容に反映されています。

(1) 部署間や教職員間の組織的連携の難しさ	5
(2) 個別教員のスキルや経験に頼る傾向	4
(3) アドバイジングに対する学生の意識や認識の向上	2
(4) アドバイザー人材の不足	1
(5) アドバイジングに対する組織の認識や評価の低さ	1
(6) 個別に対応する学生数の多さ	1
(7) 配置転換などによる継続的対応の難しさ	1
(8) ピアサポートを含むアドバイザーの育成方法	1
(9) アドバイジングの振り返りと効果の検証の難しさ	1
(10) 安易な卒業指導	1

3. おわりに

「今後取り扱ってほしいテーマや内容」、「ご感想、ご意見」への回答結果を最後に整理・集約します。テーマや内容についての要望は、『国内外を含むアドバイジング事例の紹介・検討・共有』（11件）がとくに多く挙がりました。他に『専門キャリアとしてのアドバイジングのあり方』、『米国のスチューデントサクセスの紹介・検討』、『理系学生へのアドバイジングの在り方』や『障害ある学生へのアドバイジングのあり方』など、設立大会への感謝も含めて、回答が寄せられていました。

以上、アンケート結果の取りまとめとします。貴重なご意見を賜り御礼申し上げます。